

§ 2 聖オディリアホーム乳児院

1. 事業概要

乳児院は児童福祉法 37 条に基づき、家庭で養育できない乳幼児を預かり養育し、あわせて退所したあとの相談その他援助を行うことを目的とする施設である。また、48 条の 2 で地域の住民に対して、児童の養育に関する相談に応じ、助言を行うよう努める役割も求められている。

- ・乳児院 定員 60 名
- ・地域子育て支援
 - ・子どもショートステイ事業：宿泊による一時保育。
(定員：中野区 2 名 練馬区 2 名 板橋区 2 名 豊島区 2 名)
 - ・地域子育て支援拠点事業：つどいの広場として施設の一角を地域の乳幼児親子に開放。
 - ・中野区病後児保育事業：病気の回復期にある乳幼児を日中預かる。

2. 施設運営

(1) 児童数

令和 2 年度は入所児童定員 60 名（暫定定員 58 名）で運営している。入所状況は下記①の通りであり、4 月以降、入所児童 50 名前後(入所率 80~85%)で推移しており都内では高い入所率だった。(他の乳児院は 75% くらいの入所率のところも多かった。) 児童相談所としては、新型コロナウイルスの感染予防をしながら保護者、里親との面会は継続を望むところも多く、面会中止の乳児院も複数ある中、そこに応えていたのが、オディリアだったことも大きいと思われる。下期になり、他の乳児院も工夫を重ね入所の受け入れを始めたが、入所依頼自体が少なく、全体として入所率は 70% くらいで推移した乳児院が多かった。

① 初日在籍児数

4 月	43+9 (41+8) 名	10 月	41+6 (40+4) 名
5 月	45+4 (43+5) 名	11 月	39+6 (42+8) 名
6 月	46+3 (36+6) 名	12 月	39+5 (41+10) 名
7 月	45+4 (40+4) 名	1 月	38+5 (42+10) 名
8 月	45+5 (41+4) 名	2 月	39+4 (46+10) 名
9 月	43+6 (42+3) 名	3 月	39+3 (46+10) 名

* () 内は昨年度数 * + 数字は一時保護委託数

② 年間入退所数

入所数 36名 (令和元年度76名 30年度55名、29年度は年間で40名の入所があった。)
入所理由は虐待が半数を超えていた。 続いて母の精神疾患、次子出産など

退所数 50名 (令和元年度70名 30年度52名、29年度は年間で44名の退所があった。)
家庭復帰36名のうち、一時保護のままひきとりが16名、一時保護後区市町村指導が2名。
里親委託6名(特別養子縁組1 養育家庭5) 養護施設へ変更6名 その他2名(他の乳児院や病院へ変更)

里親委託は6名だった。(令和元年度6名、30年度4名、29年度11名)今年度委託した里親らは、様々な状況変化に対する理解があったり、オープンな人柄で地域や関係機関とつながっていける方が多く感じた。年齢が高い児の里親委託もあったが、コロナ渦であっても安心して橋渡しをしていくことができた。

家庭復帰については、家庭支援専門相談員を柱に丁寧な保護者支援をおこなっていきたいが、新型コロナの感染予防を考えると面会の制限も増え、施設と自宅の往復をできる限り減らすことも求めるしかなく、とても悩みながらのケースワークを行なった。一時保護のままの引取りも半数を超え、児童相談所主体のケースワークもあり、支援方法や考えられるリスクなど児童相談所と一層の連携が必要だと考えさせられた。

(2) 職員 ⇒令和2年4月1日：105名(内非常勤18名、産休育休含む)嘱託医3名

*令和2年度の入退職

【新規採用者 7名(うち1名非常勤)】

⇒保育士5名 調理員1名 非常勤調理員1名

【退職者 5名(うち非常勤2名)】

⇒保育士2名 調理員1名 非常勤心理士1名 非常勤調理員1名

夏の意向調査の中でも退職予定の職員が少なかったこともあったが、例年予定が変わる職員も複数いたことから夜勤の二人体制を実施するため、また産休・育休だけでなく介護休暇などを考えている職員もいることを引き続き想定し、令和2年度の職員採用をおこなった。皮肉にも入所が少なかったことで、部屋の子どもの数は減少した。しかし勤続年数の浅い職員が多い中では2日に1回ではあるが安定的に二人夜勤体制がとれるようになったことは、職員の夜勤の心身の負担軽減に繋がったと思われる。ほかにも、事務職員の事務量は膨大になったが、借り上げ宿舎事業への取り組みやコロナ渦においての法人の考え方が職員に伝わり、「人を大切に考えている」ことが退職者の減少につながっているのであれば喜ばしい。

今後は、手順の見直しなどによる事務量の削減と職員一人ひとりの力や知恵を施設の力にしていけるように人材の育成と力の発揮が課題である。

(3) 児童処遇

○各室

昨年同様に4部屋がそれぞれに、家庭的な生活環境とはどういったことだろうと話し合いを重ねながら日々の養育にあたった。

そもそも、新型コロナウイルスの感染予防の取り組みと家庭的な生活には矛盾が多く、施設での生活の中でも工夫や努力でできていた様々な体験や経験を重ねることが本当に難しかった。一方、感染予防のために遊戯室の使用を部屋単位にしたり、外出後以外でも丁寧な手洗いを実施するなど新たに組み込んだことで子どもたちの違った面がみられたこともあった。

新型コロナウイルス感染予防対策のため戸外活動は制限が多かったが、室内で買い物ごっこを行ったり、地域の感染状況をみながら範囲を決めて散歩に出たり、また院庭のみではあったが雨の日にカッパや長靴を着用して遊ぶなど子どもたちが限られた中でも様々な経験が出来るよう工夫をした。また、季節を感じられるよう院庭やベランダを活用しておやつを食べる等小さな特別感を味わいながら過ごすことができた。社会経験の場は少なくなったが、ユニットごとのピクニックや調理保育を出来る範囲で工夫しながら行なったり、日々の製作遊びや歌・手遊びなどで季節の行事を十分に楽しむことが出来ていた。

七夕やクリスマスも部屋で行うことで、子ども一人ひとりのペースに合わせてながら行事を楽しむことが出来た。

食事面では、幼児食の子どもたちが廊下に展示してある野菜にとっても興味を持っている為、食材について子ども達と話をしながら食事をする場面が見られるようになってきている。

マスク着用での日々の養育は、養育者の顔、表情が見えづらくなる。マスク着用が長期的に継続するのであれば離乳食介助等の低月齢児との関わりの中ではフェイスシールドを使う等、限定的ではあるが工夫していく必要があると考えている。

○調理室

新型コロナウイルス感染予防のため、部屋が隔離になると食器を紙皿にし、一人ひとりに盛り分ける対応をとった。調理員の職員採用がすすまなかつたこともあり、おにぎり保育の回数が減ってしまったが、おにぎりは子ども達も喜んで食べてくれるため、今後も継続して続けていきたい。また、部屋で炊飯器を使用しご飯を炊くことが増え、子ども達が炊飯器を見る機会が自然と増えた。(そのことで子どもたちが炊飯器でご飯が炊けることを知り、おままごとの炊飯器のおもちゃで遊んでいる話を保育士より聞いた。)炊けてくるご飯の匂いを感じてもらえるので、今後も続けていきたい。お昼とおよつた調理保育も月1~2回は実施でき、月齢により積極的に参加する児、しない児の差はあるが、最終的には楽しく調理保育が行えた。

洗濯場職員で集まり、新型コロナウイルス対応とノロウイルス対応について話し合い、作業内容を確認し、マニュアルを修正作成し引き続きマニュアルに従って動けるようにした。

○年長児保育(ひまわり)

5月より新型コロナウイルス感染予防対策として、フロア単位の保育とし「アンナ室、テレサ室」の週「ローザ室、クララ室」の週に分かれ、隔週で年長児保育を行った。近隣幼稚園や高齢者施設との交流など社会経験や地域との交流は全くできなかった。

コロナのみではなく、夏季には熱中症アラートでの外出中止、という状況も新たに加わり、居室で散歩に出かける機会が減ってきていることも関係するのか子ども達の体力、筋力の低下を著

しく感じた。限りはあるがひまわりではできるだけ戸外へ出ていき、散歩や公園で遊具を使って体を動かして遊ぶ、ということを中心に置いての保育を実施した。

対象月齢の児が少なかったため、ひまわりでも人数が少ない日が多かった。少人数で個々との関わりを丁寧にすることはできたが、年長児保育のメリットである「他室の児と、小さな集団の中で過ごすことで刺激を受け合いながら共に成長する」という関わりは出来なかった。

フロアごとに行うため、隔週での参加となったので、児が年長児保育の生活に慣れるまでに時間がかかってしまった。他室の児と関わるのが子どもたちにとって大きな刺激となり、成長に繋がっていていることを実感できていたので、四部屋合同での年長児保育を出来るようになるにはどうしたらよいか今後の検討事項である。

○行事

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、公共交通機関を使った外出や遠足を中止したほか、行事の企画内容を早期の段階から検討し、感染対策に配慮しながらも子どもたちが行事を楽しめるよう企画した。

(上期全体行事実施内容)

- 4月12日 イースター：今年度もゆで卵のペイントは中止し、卵型の入れ物にお菓子をいれておこなう宝探しは継続した。卵アレルギーの児への心配がなくなり安心して楽しめた。
- 5月5日 こどもの日：着物を着て写真撮影をしたり、遊戯室やベランダで部屋ごとにお弁当を食べた。
- 6月26日 じゃがいもほり：年長児保育（ひまわり）で4名が参加した。
- 7月7日 つどいの広場の縁日と七夕を今年は中止。部屋ごとに実施。
甚平を着てヨーヨーつりなど夏祭りの雰囲気を取り入れた遊びをしてから昼食はバイキング食を楽しんだ。
- 8月 すいか割り(部屋ごと 4日間)：親子レクリエーションとして実施していたが、新型コロナウイルス感染予防対策として今年は保護者不参加で実施した。

(下期全体行事実施内容)

- 10月31日 ハロウィン:コロナ感染予防のため、人数制限を設け自立歩行可能な児のみステーションを回ることとした。例年と異なったが人数が少ない方がスムーズに行動できたとの意見が多かった。
- 12月21日 冬至: 柚子の香りをかいだり触ったりなど五感を使って楽しむ事が出来た。
- 12月25日 クリスマス:コロナ感染予防のため会食を中止し部屋食となった。部屋を巡回する順番や巡回するサンタの手指消毒、マスク装着、面会室のみでの実施等感染に配慮した内容となった。子どもたちはサンタと写真撮影をしてプレゼントをもらい特別な日を楽しむ事が出来た。
- 1月1日 正月:事前の製作や部屋の装飾等でお正月の雰囲気を感じることが出来た。
- 2月2日 節分:鬼を怖がる児もいたが、各部屋工夫して節分を楽しんだ。感染症対策として鬼の面を各部屋一つずつとした。
- 3月3日 ひな祭り:着物を着た女兒たちは「かわいいね」と褒められて嬉しそうにしており、特別な日を感じられた様子だった。男児たちも楽しめるような導入や歌などあればより楽しめたとの意見もあった。

② 健康

個々の月齢にあわせ、嘱託医（順天堂練馬病院、Dr花岡）による健診と定期予防接種（近隣小児科）を実施した。病虚弱児の申請と確認を行い病気や障害に合わせたケアが行えるように努めた。

野方消防署による救急救命訓練や各室ごとに急変時のシミュレーションを1回ずつは実施した。常にとどの職員も適切な対応ができるように定期的に急変時のシミュレーションを行う必要があると感じた。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の対応をする事で、コロナはもちろん他の感染症発症も例年に比べて断然に少なく過ごすことができた。PCR検査を何度か経験しそこから学んだことを盛り込んで、マニュアルも作成できた。また、熱中症の対応についてのマニュアルも作成し共通した対応をする事で、熱中症をおこすことはなかった。次年度も新型コロナウイルス感染症の終息は見込めないと思うので、フィードバックからマニュアルを見直しし、感染拡大予防の対策に努めていきたい。

	計画内容	評価
4月	【衛生】 <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・各部屋で入所児の予防接種一覧表に記入・把握し、担当職員に助言して進めていく ・座薬管理表の記入と管理（退所児のものや期限切れは破棄） 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室)実施 ・各係決め ・新型コロナウイルスについて ・与薬マニュアルの見直し
5月	【衛生】 <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員) ・布団乾燥(1回目) ・救急救命レクチャー…野方消防署 ※昨年度未講習者、新職員を中心に2回実施 ・害虫駆除 ・夜間の虫よけの使用開始（11月末まで） 【病虚弱児会議】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有・疑問点について・ルカ室使用について 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員)実施 ・5/25 害虫駆除 ・2種類の処置管理表お試し終了し、6月より全部屋統一へ ・急変時シミュレーション実施、振り返り ・室温設定の振り返り ・誤薬・与薬ヒヤリハットの書式の見直し ・新型コロナウイルスについて ・日焼け止めの使用について ・新生児の保湿について
6月	【衛生】 <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・予防接種・乳幼児健診の状況を確認・推進 ・蚊の対策・虫よけ薬品に使用方法確認 ・水遊び・プールマニュアル見直し ・CPR訓練 ・ミニレクチャー『食物アレルギー 急変時対応マニュアルについて(DVD鑑賞)』 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室)実施 ・マニュアル追加：ヒトメタニューモウイルス ・熱中症対策予防確認 ・6/12.19 ミニレクチャー：食物アレルギー ・卵アレルギー発症時の対応について確認 ・処置表について確認

	<p>【病虚弱児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虚弱児申請(1回目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時救護マニュアル検討 ・病虚弱申請児の確認、申請
7月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員) ・職員健診(弥生クリニック) (麻疹・風疹・水痘・おたふく等抗体希望者) ・歯科健診(しもしげ Dr.) ・熱中症予防の対策確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査実施(全職員) ・7/8 歯科健診実施 ・耳垢のチェック、管理について ・ヒヤリハット書式改訂 ・窒息時対応の掲示
8月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・害虫駆除 ・ミニレクチャー『頭部打撲の対応』 	<ul style="list-style-type: none"> ・8/31 害虫駆除 ・ミニレクチャー：頭部打撲(8/14.21) ・健康管理マニュアル改訂 ・新型コロナウイルスについて ・PCR 検査結果待ちの隔離対応について検討 ・布団乾燥中止の為、天日干し
9月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員) ・布団乾燥(2回目) ・予防接種・乳幼児健診の状況確認・推進 ・保健師による研修 ・上期の計画の進捗状況確認と反省、下期の計画に見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員) ・手袋、マスク、エプロンの正しい着脱についての資料作成 ・上半期の進捗状況、反省 ・水遊び・プールマニュアル、熱中症マニュアルの見直し
10月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・児インフルエンザ予防接種開始 ・救急救命レクチャー…野方消防署 ※5月の講習を受けられなかった職員をピックアップし各部屋でシミュレーションをしていく。 ・CPR 夜間想定(3~4回) ・誤薬・ヒヤリハット集計し原因追及後、与薬マニュアル見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・救命講習2回実施(10/7.9) ・10/13 子どもインフルエンザ予防接種、10/22 職員インフルエンザ予防接種、職員健診(1回目)実施。 ・大型加湿器、小型加湿器使用開始。
11月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室・直接処遇職員) ・職員インフルエンザ予防接種 ・害虫駆除 ・加湿器準備・使用開始 ・体調チェック開始(新職員・面会者・業者等) ~2月迄 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室・直接処遇職員)実施 ・11/11 職員健診2回目、職員インフルエンザ予防接種実施 ・11/18 子どもインフルエンザ予防接種(2回目)実施 ・救命講習2回実施(11/2.17)

	<p>【病虚弱児会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の見直し・情報の共有・疑問点について・ルカ室使用について 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス対応について ・加湿器準備・使用開始 ・11/30 害虫駆除
12月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・インフルエンザ他予防接種・健診の状況確認・推進 ・インフルエンザマニュアルの確認 ・ミニレクチャー『嘔吐・下痢の対応確認』 <p>【病虚弱児】</p> <p>病虚弱児申請 (2回目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・12/11.18 ミニレクチャー「嘔下痢の対応確認」 ・病虚弱申請(2回目) ・コロナウイルス対応について
1月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員) ・職員健診(夜間勤務者) ・布団乾燥(3回目) ・今年度の反省と次年度年間目標・計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(全職員)実施 ・1～3月急変時シュミレーション実施(4パターン) ・新型コロナウイルスマニュアル追記、完成 ・今年度の反省と次年度年間目標・計画の立案 ・緊急時用内線について検討
2月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室) ・害虫駆除 ・感染症対応マニュアルの見直し ・小児科医による感染症講義 <p>【病虚弱児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各児の計画見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室)実施 ・2/26 害虫駆除 ・1回目の急変時シュミレーション振り返り ・おむつかぶれについて ・細菌検査の提出率と提出方法について ・コロナウイルス対応について(食事の仕方) ・ルカ室の玩具について ・ピューラックスの消毒の仕方について
3月	<p>【衛生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細菌検査(調理室・直接処遇職) ・予防接種・検診状況確認・推進 <p>【病虚弱児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虚弱児申請3回目(今年度のまとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3/15 職員健診実施(夜勤従事者のみ) ・細菌検査(調理室・直接処遇職)実施 ・隔離時のミルトン消毒について ・フェイスシールドの管理方法について

		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス発症時のフィードバック、感染症対策について、行動チェックリストについて ・3/26 布団乾燥 ・病虚弱申請3回目
--	--	--

① 家庭支援、里親支援、心理

○家庭養育推進事業としての取り組み

昨年同様、支援会義を設定し、小児科医、作業療法士、臨床心理士の他、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、里親交流支援員、看護主任、今年度から部屋主任等の関係職員により施設内の治療的環境作りの調整を行った。芦田先生にはケースミーティングに出席、ミーティング記録に目を通すだけでなく、個別のケースについては小児科医からその対象の児の病気についての講義をしていただき、診立てに基づく今後の支援のあり方について協議をおこなった。部屋の主任が出席できたことで直接アドバイスをうけることができた。

○家庭支援

- ① 先行3区の区児相が開設されたが、ケースの進行が滞ることは無かった。しかし、区ごとの独自のルールや都児相との違いなどに戸惑う事が多かった。新型コロナウイルスの感染防止対策により面会を制限したり、外泊を調整することがあったが、ほとんどの保護者が理解を示し協力を得る事ができた。感染予防対策による家庭復帰への影響を最小限にとどめることができた。中には理解を得ることが難しい保護者や、不安を強めた保護者もいたが、児童相談所と連携し対応した。ケースの方向性等について、子どもについてその担当職員と話をし、思いを汲みながら家庭環境や本児を取り巻く環境に留意してケースワークを行った。
- ② 里親担当と、養育家庭委託候補児としていきたい児の発達やその進捗状況について適宜情報を共有した。里親委託等推進委員会への提案等、児童相談所へのアプローチを行った。
- ③ アフターケア：施設変更児は新型コロナウイルスの影響で調整することが難しく、適切な時期に行えないケースがあった。家庭復帰児も来院してもらえず、アルバム等を郵送で対応したケースもあった。

○里親支援

- ①里親支援専門相談員の業務内容を元に、里親交流支援員と業務を分担し、活動に取り組んだ。
 - ・施設内の会議に出席しながら家庭支援専門相談員とも情報を共有し、候補児を選出した。里親支援専門相談員が5児相(センター、北、足立、江東、杉並)の里親委託等推進委員会にて書面開催であったが出席して、児童相談所と児についての見立てや交流方法を共有し、里親委託推進を図った。
- ②里親支援専門相談員、里親交流支援員で情報を共有しながら、里親、児童相談所、部屋職員と連携を取り、入所児童の里親委託までの交流支援を行った。関係者会議などにおいて課題の整理を行い、地域の里親支援へと繋げた。

③チーム養育体制の中で、児童相談所や児童養護施設、里親支援機関、地域関係機関と会議等を定期的に行い、連携をとりながら地域の里親委託家庭の家庭訪問や委託事業の仲介を行い、里親の不安軽減に努めた。

・里親実習について、今年度は回数が増える予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、縮小して実習を受けた。居室に入れられないため、離乳食試食や講義を多くして対応した。

④児が育ってきた場所の一つとして、離れていても成長を見守り繋がっていけるよう、申し出の来訪は随時受け入れている。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの全国的流行に伴い自粛された家庭が多く、個別に相談があったケースについては別室で受け入れるなど対策を取った上で対応した。また、同じく例年実施していたオディリア会(退所児行事)の実施についても相談の上、今年度の実施は見送った。

○心理

発達検査を実施した児の結果について担当保育士にフィードバック面接を行い、部屋で情報共有できるように工夫した。プレイセラピーを導入した際は児童相談所の心理司と連携を図り、関係機関に直接見立てや意見を伝えた。

新型コロナウイルス感染防止対策により観察できる居室が限られていたため必要時に観察に行けない日もあったが、心理士同士で協力しながら補うことができた。

(4) 研修・会議

職員会議、主任会議、支援会議、各室の運営に関わるミーティング、各室の児童の発達に関わるミーティング、委員会による会議のほか、各児童の月齢に合わせたケース会議など事業計画にもとづき実施した。今年度も支援会議に部屋主任が参加したことで、病気について学んだり病状の把握に努める機会が持てた。

今年度も1年間かけて新職員育成プログラムを実施した。その中で、前年度に引き続き副施設長や看護主任だけでなく、相談員や保育士、看護師が講師として出席する機会を作った。

* 院外研修

- ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、大幅な予定変更を余儀なくされた。
- ・開催時期や方法、申し込み時期などが全て変更となり、ホームページで常に募集開始の確認が必要な研修もあり、対応に迫られた。
- ・募集人数が大幅に減り事業所ごとの制限もあって、各部屋からの希望者が参加できないことが多かった。

* 院内研修

- ・心理士によるプレイセラピーについての研修は部屋ごとに何回か行ったことで、通常よりも参加できる人数が増え、質問もしやすくより充実した内容になった。
- ・事例検討会の実施方法について、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため本来の実施方法での研修が難しく混乱が多かったように感じた。来年度も再度検討が必要だと思う。
- ・施設見学が今年度も実施できなかった。
- ・過去の研修動画を整理し閲覧できるようにした。

○院内研修状況報告

	衛生・安全委員会（ミニレクチャー）	院内での研修 研修委員会
4月		○聖オディリアホームの基本理念、運営方針、望まれる職員像（豊崎理事長）
5月	○CPR及びNコールに実施訓練	
6月	○12、19日ミニレクチャー「食物アレルギー」	○院内研修「小嶋弁護士による個人情報保護について」6/17
7月		
8月	○14、21日ミニレクチャー「頭部打撲」	○院内研修「心理士によるプレイセラピーについて」各部屋単位で実施
9月		○院内研修「里親体験発表会」9/29 ○院内研修「心理士によるプレイセラピーについて」各部屋単位で実施
10月		○院内研修「心理士によるプレイセラピーについて」各部屋単位で実施 ○7日、9日 救急救命講習(野方消防署) ○10/23 シスターのお話「愛について」(ベタニア修道女会シスター松本圭世講話) ⇒延期
11月		○2日、17日 救急救命講習(野方消防署) ○PICAGIP 法による事例検討会 ○11/13 シスターのお話「愛について」(ベタニア修道女会シスター松本圭世講話)
12月	○11日、18日ミニレクチャー「嘔吐・下痢の対応」	○院内研修「心理士によるプレイセラピーについて」各部屋単位で実施 ○12/11 シスターのお話「愛について」(ベタニア修道女会シスター松本圭世講話)
1月	○1～3月急変時のシミュレーション4パターン（全室）	○院内研修「心理士によるプレイセラピーについて」各部屋単位で実施
2月	○1～3月急変時のシミュレーション4パターン振返り（全室）	

3月	○1～3月急変時のシミュレーション 4パターン（全室） 急変時のシミュレーション(全室)	○3月1日 ワークショップ（各室の職員による保育教材の紹介）

○新職員育成プログラム

2020年4月～2021年3月

月	指導者	内容（保育関係）	（衛生関係）	説明日
4月	副施設長 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> 「笑顔で働く理由」全国乳児院福祉協議会DVD 15分 ～記録～のポイント 電話対応外線の取り次ぎ方（保留転送）の仕方 電話対応マニュアル（内線・外線・部屋の携帯） 風邪、熱、腹痛、下痢、腰痛・・・職場への連絡方法 バギーの使用法・おんぶひもの使用時の注意点 フローチャート（緊急・事故・火災・地震）の対応 鍵、玄関、庭、門 暗証番号について オディリアホーム乳児院 Q&A 	<ul style="list-style-type: none"> 与薬マニュアル 与薬管理表の作成手順 	4/13
			<ul style="list-style-type: none"> 服薬・座薬・点耳薬・点眼薬 	4/20
			<ul style="list-style-type: none"> 点鼻薬・軟膏 ホクナリンテープ等 	4/27
			<ul style="list-style-type: none"> 健康管理（カルテ）の記入の仕方 嘱託医による診察の受け方 	
5月	里親交流支援員 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> 里親支援⑨ 	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサインチェック（体温・呼吸・脈拍） 	5/11
			<ul style="list-style-type: none"> 発熱時の対応（クーリング法） 	5/18
			<ul style="list-style-type: none"> 鼻汁吸引マニュアル 細菌検査提出の仕方 	5/25
6月	副施設長 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> 専門的知識④ 	<ul style="list-style-type: none"> 入所児の健康管理（入所時健診） 	6/8
			<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健康診査・予防接種・予診票の記入の仕方・歯科検診 	6/15
			<ul style="list-style-type: none"> 母子手帳の見方、記入の仕方 	6/22
7月	保育主任 調理主任 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣（排泄・着脱） 離乳食について 	<ul style="list-style-type: none"> 発疹の対応 	7/13
			<ul style="list-style-type: none"> 咳の対応 	7/20
			<ul style="list-style-type: none"> 吸入マニュアル 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・パルスオキシメーター（血中酸素濃度測定） ・浣腸、綿棒刺激マニュアル 	
8月	上級職員（保育士） 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時SK・SK・HK・K 段階表・お食い初めについて（マニュアルから） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーセンス使用マニュアル ・病院受診マニュアル（各同意書・承諾書について）、受診券・保険証・診察券・薬手帳の取り扱い方 ・ベットの組み立ての注意点と日々の管理（安心安全に使用するため） 	8/17 8/24
9月	保育主任 看護主任 上級職員（看護師）	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児院におけるアセスメント ・ジェノグラムの書き方 ・DENVER 記録票 ・育成記録（他の職員の育成記録から学ぶ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の振り返り ・感染症発症時対応マニュアル（インフルエンザ、ノロ、ロタウイルス感染性胃腸炎等） ・ストレスチェックについて ・食物アレルギー 	9/7 9/14
10月	施設長 副施設長 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> ・入所半年後の施設長 副施設長と交えてのディスカッション（入職半年たって考える事、施設や他室の職員に聞きたい事） 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐、下痢時の対応 ・吐物処置の仕方 DVD を見る ・手洗い方法説明と実践 ・体調チェックについて（11月～2月） 	10/12 10/19
11月	副施設長 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児院におけるリスクマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・CPR(心肺蘇生)、AED の使い方 ・痙攣の対応、報告・連絡・相談について 	11/9 11/16
12月	育成指導者の集まり ・育成指導でのアンケートを基に話し合い		12/14（育成指導者） 12/21（育成指導者）	
1月	心理士 上級職員（看護師）	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着の話 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい及び病虚弱児童マニュアル 	1/18 1/25
2月	上級職員（保育士） 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直マニュアルの説明 ・緊急入所対応 緊急病院受診の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・順天堂練馬病院受診、救急外来受診の仕方（受診用バックについて） ・SIDS 予防対応マニュアル 	2/8 2/15
3月	地域支援専門相談員 副施設長 看護主任	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児院における地域支援 ・人事考課説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・肘内障マニュアル ・爪切りマニュアル ・歯みがきマニュアル ・振り返り（新職員アンケート） 	3/8 3/15

(5) 防災・防犯・安全

○防災・防犯

毎月 2 回の防災訓練は年間計画と毎回設定した計画（火事だけでなく地震も想定。昼間だけでなく夜間も想定）に基づいて実施できている。ランタンの備蓄電池を 10 年期限に交換したり、災害用トイレを必要数（職員数 50 人×5 回×5 日分）揃えたり、備蓄品を整えた。火災報知版の取扱説明書を完成させ、フローチャートに設置することが出来た。

今年度の訓練は新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて訓練の規模を縮小するなどして行った。（集まりの短縮・省略、部屋ごとの訓練） また、調理室が火元の火災訓練を実施した。訓練を実施したことで調理室内の防災に対する意識が高まった。その他、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため起震車体験は中止になった。

○安全

毎月の委員会で各部屋の事故報告書、事故経過観察書、ヒヤリハットを報告し共有することができた。また、気になる内容については委員会内でも対策を話し合っている。

- ・7 月 22 日日中の防犯訓練を実施。反省をもとに、マニュアルの見直しや、セコムフォンの使用方法の確認等を引き続きおこなっている。

- ・安全点検チェックリストの見直しを行ったので修正して来年度から使えるようにする。耐震盤や安全ロックのチェックや交換などは各部屋で行えた。

事故、事故経過観察、ヒヤリハットの調査報告書が完成したので、各部屋に配布し全職員に確認を促すことで危険箇所や時間帯など意識させることができた。集計結果をもとに怪我の多い時間帯をどの様に過ごすかなどの話し合いが大切なため、来年度は調査報告書の内容を更に活かせるようにしていきたい。

(6) ボランティア・実習生

○ボランティア

読み聞かせ、手遊び、刺繍指導、学生ボランティア受け入れは、コロナ禍の為中止とした。縫製ボランティアについては緊急事態宣言から 9 月まで中止とした。10 月に再開したが、再び緊急事態宣言が出たので現在は在宅で協力いただける方をお願いしている。尚、縫製ボランティアは 5 グループ中、2 グループが解散、活動休止が 3 グループ。個人協力者 8 名となっている。エプロン、名札、布巾、雑巾等は年間必要量を在宅ボランティアに協力していただいた。在宅ボランティアの方の負担を減らすためや、お互いの意向の食い違いをなくしすぐに作業にとりかけられるよう生地の手配、裁断などの準備をした上で依頼、発送を行なったので時間を要した。

○実習生

今年度はコロナ感染症の影響により 5 月～8 月までの実習校は中止や延期となり、9 月より実習を開始し 12 校を受け入れることになった。

オリエンテーションをしなかったことが原因かは特定できないが、今まではなかったことだが、実習生が持ち物（健康診断書、外履きや実習プログラム）等忘れていたことがあった。

また、学校にも通学できていないことからか実習中に体調を崩したり、施設実習へのやる気が低い学生が例年より多く感じた。

院内の新型コロナウイルス感染疑いのための隔離対応や実習生の体調不良等があり実習生の実習期間や実習時間の変更等があった。学校に連絡したが学校側もリモート授業等で先生も不在、実習担当の先生となかなか連絡がつかないこともあった。今年度は特に実習生や学校とのやり取りが難しいと感じたが、実習委員で情報を共有しながらその都度対処することができた。

(7) 工事・購入、環境整備

テレサ横の倉庫整理を一つの目標として考えていたが、取り組むことが出来たことで使いやすくスペースのある場所となった。その空いたスペースに配送されてきたオムツを直接入れることができることによって事務所横に荷物を置くことがなくなり、安全面からも見た目にもとても良くなった。

令和2年度の主な工事・購入など下記の通りである。(単位：千円)

工事(修繕)	2階職員玄関自動ドア	495
購入	居室大型加湿機(4台)	3916
	調理室オーブン	1010
	ブラストチラー(瞬間冷却装置)	903
	パルスオキシメーター(酸素飽和度測定器)	335
	包丁まな板殺菌庫	250

その他 エアコンの(水うけも含む)清掃を、移転後初めて居室7カ所(6月)おこなった。全部で65台あるが、一台の清掃代金が高額のため一度にはできない。来年度以降で順番におこなう必要がある。

(8) 地域交流・地域支援事業

○つどいのひろば (週に5日開所)

・中野区からの要請により新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月上旬から閉所していたが、6月より開放を再開した。閉鎖している間の3ヶ月で内装を変更し、広い畳スペースを撤去し壁付けの棚を動かすことで子どもが集中して遊びに取り組めるようなコーナーを作ることができた。

・再開後は午前午後の2部制とし、各回5組までと制限し、間に室内の清掃および消毒を行ってきた。当初は戸惑う利用者も多かったが、だいぶ浸透してきたと感じる。必ず赤ちゃんタイムの日に来院する親子や常連の親子など、安心して遊びに来ている様子が伺える。

・イベントが行えない分、季節の製作を取り入れるようにしてきた。高月齢児を中心に、工作コーナーで集中して製作に取り組み、嬉しそうに作品を持ち帰る姿が定着してきた。クリスマス会も中止になってしまったので、フォトスペースを作るなど工夫した。

・10月28日福祉施設地域活動助成事業の助成をうけ、ひとみ座による人形劇鑑賞をつどいのひろばで実施した。今回は新型コロナウイルス感染予防対策の為、人数制限を設け上映時間を短縮し2回に分けておこなった。エリアを決めて入所児も参加した。入場者には検温、消毒を徹底し上演前後に換気した。1回目と2回目の間には室内を消毒した。臨時駐輪場を設け来院者と帰宅者が密にならないよう職員が誘導するなど十分な対策をとった。

○ショートステイ（中野区、練馬区、板橋区、豊島区から各2名）

・今年度も第1回4区合同会議を8月25日に開催した。緊急時（土日祝日）の対応について検討した。第2回4区合同会議は新型コロナウイルス緊急事態宣言がだされたことで中止にしている。

・見学研修が中止になった為、豊島区より講師を招いて3月5日に学習会を開催した。
・食事や睡眠などに課題がある児も多く、職員間で情報共有しながら必要に応じ区とも相談し、児の保育所などから情報を聞き取り対応した。

	ショートステイ			
	中野区	練馬区	板橋区	豊島区
延べ人数	30名（35名）	119名（291名）+ 要支援55名（41 名）日帰り23名	137名（147名） 日帰り47名（215名）	24（38名） 要支援72（38名） 日帰り7名

（ ）は昨年度

○病後児保育（中野区から2名）

・新型コロナウイルス流行の影響により、利用そのものが少なく年間で6件の利用だった。
・コロナウイルス感染症予防で利用時はもちろんのこと、電話問い合わせ時点でも利用予定児と同居家族の健康状態の確認を行い。利用当日は送迎の保護者のマスク着用、全員の検温、手指消毒を実施した。
・利用前後の清掃・消毒を徹底して行い他者へ感染防止に努めた。

(9) 職員健診等

細菌検査、健診（やよい診療所他による）、インフルエンザ予防接種の実施。Dr花岡（産業医）に協力していただきストレスチェックを実施した。

(10) その他

①第三者評価

福祉サービス第三者評価受審は(株)シーサポートに依頼した。
評価結果は別紙報告事項の通りである。

② 苦情解決

3月3日に荒船評議員、小嶋弁護士ら出席のもと苦情解決委員会を開催し、事故報告書や、ヒヤリハット報告書の確認と、対応についてのアドバイスをいただいた。

③その他

・東京都による実施検査は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。